酒々井町

郷土研究会会報

第147号

平成25年1月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

新しい年を迎えて

会長　岡田利光

新年明けましておめでとうございます

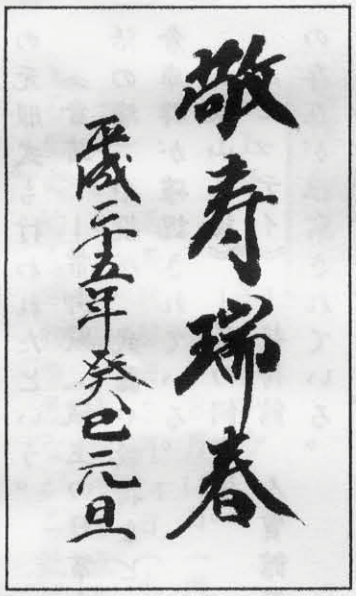
会員のみなさまには、お元気で輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨今は気温の寒暖差が大きく、夏は極めて暑く、冬も厳しくなっているなかで、積極的な健康管理を念じております。

私たちの住む酒々井町は歴史の豊かな町であって、縄文土器や弥生土器が町内から発掘されているほか、古墳も数基発見されているという深い年輪を有する町です。

また、中世の時代には岩橋殿と称されていた千葉輔胤と孝胤の親子が、今から530年位前に本佐倉に山城を構え、約110年の間、9代の城主が下総国の政治経済の中心となって栄えた町でもあります。

その関係から神社仏閣も多く存在し、石仏に至っては先輩たちが昭和58年に調査整理した結果では地蔵菩薩、如意輪観音、庚申塔など一千基を超える数を有します。また近頃非常に人気を博している双体道祖神が9組もあり、県内他市町には無いもので、しかも夫婦和合、子孫繁栄という信仰が2百年以上も続いているという素晴らしい石仏もあります。



私たちはこのような郷土の良さを再認識し、町内外の方々に周知するため先輩たちの発行した会報を読み直して温故知新を図り、新しさを追求していきたいと考えているところです。

その上で酒々井ならではの素晴らしい自然環境をはじめ、本佐倉城跡を中心とした貴重な文化遺産と他に誇れる石仏群を、成田空港やこの春オープンするアウトレットを訪れた方々に見て頂き、ご満足をいただけるよう、知識の向上を図っていきたいと考えています。

終わりにあたり、今年も心に残る名勝探訪や郷土史講座を企画し、ご案内しますので万障お繰り合わせの上、ご参加をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

総会のご案内

郷土研究会の第37回定期総会を、平成25年1月27日（日）午後1時30分より、中央公民館研修室において開催いたします。

万障お繰り合わせのうえ、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

『本佐倉城跡周辺の史跡と自然展』回顧録（四）

本佐倉城の築城から落城まで

髙木正浩　浜口信義
白鳥昭興

千葉城から本佐倉城へ

享徳の大乱（1454）を契機とした千葉氏の内乱は、宗家である千葉胤直が分家の馬加康胤に敗れ、宗家を継いだ康胤も八幡で敗死。その結果、岩橋輔胤が家督を継ぐことになった。輔胤は千葉氏代々の居城であった「千葉城」が戦場により荒廃したため、文明年間（1469～1486）に新たな千葉氏の居城として「本佐倉城」を築城した。

この城跡は印旛沼に接する標高約30㍍の台地上に築かれ、その面積は35万平方㍍という広大なもので、内郭群・外郭郡・城下町を含む惣構えの三重の同心円で構成されている。

【内郭群について】

内郭群は城山、奥の山、倉跡、IV郭、東山馬場、東光寺ビョウ、セッテイの七つの郭からなっている。

《城山》ー城主の執務、接待の場。主殿や会所、茶室、台所と思われる建物跡、櫓跡などが確認されている。

《奥の山》ー儀式や儀礼の場。妙見宮跡もあり、出陣式をはじめ、利胤（5代城主）や邦胤（8代城主）の元服式も行われたという。

《倉跡》ー常御殿（城主の日常生活の場）や役所、武器や穀物などの倉庫群が確認されている。

《東山馬場》ー馬の飼育場。

《セッテイ》ー接待館、人質館等の存在が推察されている。

【外郭群について】

外郭群は荒上・向根古谷・佐倉根小屋の三つの郭に分かれ、どの郭にも侍屋敷があって軍団の駐屯地であったと思われる。深く雄大な土塁や空堀が存在し、向根古谷の郭には「馬出し」が見られる。

前衛の臼井城では太田道灌・上杉謙信・正木大膳など、三度にわたる攻防があったが、この本佐倉城は本城でありながら敵の攻撃がなかったといわれており、非常に攻め難い、抑止力の効いた城郭であった。

本佐倉城の略年表

年代	主な出来事
享徳3年（1454）	享徳の大乱。千葉氏内紛で千葉本宗家滅亡。
長禄3年（1459）	輔胤、千葉宗家を継ぐ。
応仁元年（1467）	応仁の乱。戦国時代突入！
文明年間（1469～1486）	輔胤、本佐倉に本佐倉城築城し、千葉氏の居城となる。（初代城主）
文明11年（1479）	輔胤の長男孝胤、臼井城を攻める太田道灌らと戦う。
明応元年（1492）	孝胤、家督を継ぐ。（2代城主）
永正2年（1505）	勝胤、家督を継ぐ。（3代城主）
永正11年（1514）	勝胤、歌集『雲玉和歌集』を編纂。
享禄元年（1528）	勝胤、浜宿（大佐倉）に勝胤寺を建立。昌胤の長男利胤、本佐倉城内妙見宮で元服式。
天文元年（1532）	昌胤、家督を継ぐ。（4代城主）
天文12年（1543）	鉄砲伝来

【城下町について】

本城の5キロメートル四方には、城下町として東に「酒々井宿」、西に「鹿島宿」、南に「本佐倉宿」、北に「浜宿」があり、家臣の家屋敷をはじめ、商人や職人などが居住していた。

また、城下には千葉氏の祈祷寺である佐倉真言五ヶ寺（文殊寺、吉祥寺、東光寺、大仏頂寺、宝珠院）や妙胤寺、城主勝胤開基の勝胤寺などの寺院が20ヶ寺、千葉氏の氏神である妙見社、市の神である八坂神社、鎮守である麻賀多神社など神社が17社確認されている。

千葉氏滅亡後の本佐倉城跡

一世紀余にわたり、下総国の政治、経済、文化の中心として栄えた本佐倉城は、天正18年（1590）、豊臣秀吉の小田原征伐によって、千葉氏は北条氏とともに滅亡。これにより本佐倉城は徳川家康の管理下におかれ家臣の大名が相次いで入封した。

★天正18年（1590）＝三浦義次

★文禄元年（1592）＝武田信吉

武田信吉は家康の5男。母君は秋山夫人と呼ばれ、武田家の重臣秋山虎康の娘で家康の側室となり於都摩（おつま）の方と呼ばれた。本土寺（松戸市）にお墓がある。

★慶長7年（1602）＝松平忠輝

松平忠輝は家康の6男。武田信吉と松平忠輝は本佐倉城陣屋（大堀館といわれ、トライアル付近にあった）に入ったとされている。

★慶長12年（1607）＝小笠原吉次

★慶長15年（1610）＝土井利勝

土井利勝は慶長15年小見川藩主から入封し、同16年（1611）家康の命により当時廃城となっていた戦国期の鹿島城跡（現歴博所在地）に近世佐倉城の築城に着手し、元和3年（1617）に完成した。

これ以後「佐倉」の地名は現在地を指すことになり、本佐倉城の機能は完全に終え、城下町の移転とともに消滅することとなった。

城山から東山虎口を臨む

天文15年（1546）	利胤、家督を継ぐ。（5代城主）
天文16年（1547）	利胤、急逝。利胤に子がないため、昌胤の3男親胤が7歳で家督を継ぐ。（6代城主）
弘治元年（1555）	親胤、15歳で元服。北条氏康の娘と結婚。上杉謙信らと臼井城で戦う。
弘治3年（1557）	親胤、城内の妙見宮で暗殺される。この事件以降、後北条氏の強い影響を受ける。
元亀2年（1571）	胤富（昌胤の2男）、家督を継ぐ。（7代城主）
天正元年（1573）	胤富の子邦胤、本佐倉城内妙見宮で元服式。
天正7年（1579）	本佐倉城火災により炎上。胤富、城普請を命ずる。
天正13年（1585）	邦胤、家督を継ぐ。（8代城主）
天正18年（1590）	邦胤、城中寝室で暗殺される。邦胤の子重胤、3歳で家督を継ぐが人質として小田原へ送られ、北条氏政の4男直重が9代目城主となる。豊臣秀吉小田原征伐。千葉氏一族小田原へ出兵。北条氏滅亡とともに千葉氏滅ぶ。

《名勝探訪》

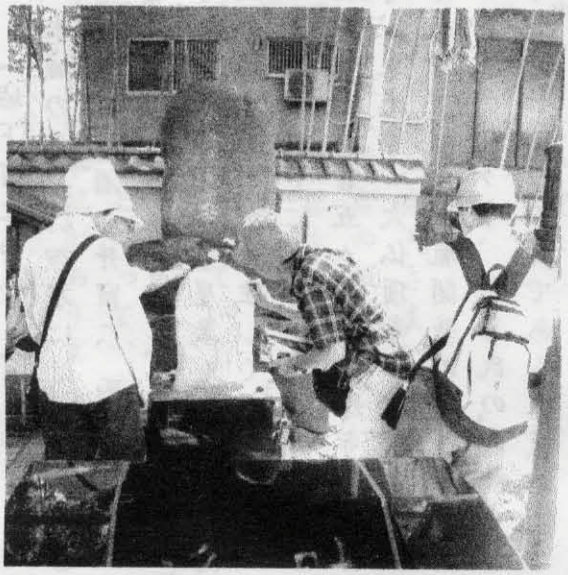
両国方面散策記

丸山正義

夜来の雷を伴った激しい雨も、朝にはすっかり上がり、抜けるような青空の下、初秋の一日、一行25名、今日（9月12日）は東京の下町・両国方面の散策である。

JRの快速電車で錦糸町駅乗換え両国駅下車。両駅からは東京の新名所スカイツリーが間近に臨める。

大相撲九月場所が開催中で力士の姿も散見。駅前通りには、横綱の土俵入り姿の石像に人気力士の手形も。



ねずみ小僧の墓石を削り強運のご利益を授かる

先ずは『回向院』に向かう。ビルの谷間にコンクリートの本堂。明暦3年（1657）の江戸大火で亡くなった多数の無縁の霊を弔うために建立された浄土宗の寺院である。本尊阿弥陀如来像（都指定文化財・銅像・坐高282センチ・メートル）及び供養塔（都指定文化財）に詣で、昨年3月11日の東日本大震災で亡くなられた方達をも思い、合わせてご冥福を祈った。境内の一角に、義賊といわれた歌舞伎や講談でよく知られた「ねずみ小僧次郎吉」（俗名・中村次良吉）の墓もある。

続いて都指定史跡『吉良邸跡』へ向かう。現在跡地は本所松坂町公園として、当時の屋敷図や吉良上野介の坐像及び赤穂浪士が吉良の首を洗ったと伝わる井戸がある。高家の格式を表すなまこ壁と黒塗りの門に往時をしのぶ。

駅まで戻り、江戸東京博物館で開催中の開館20周年記念『二条城展』へと足を運ぶ。国指定史跡で世界遺産にも登録されている二条城（二の丸御殿は国宝）、その室内を飾る多数の障壁画（重要文化財指定）を鑑賞。狩野派の絵師達による豪華絢爛な名品の数々に目を奪われる。慶長8年（1603）初代徳川家康の江戸幕府開府とともに京都の地に築かれた二条城は、慶応3年（1867）第15代慶喜による大政奉還発表に至るまでの260余年の徳川幕府の栄光と終焉の歴史を語っている。

その後、常設展示室を回り、特集展「日本映画の青春時代」の懐かしいポスターやスチール写真に当時の思い出を重ねつつ帰路に着いた。

俳句　丸山緑酔

回向院山門入れば竹の春
供養塔作る蔭あり昼の虫
暑のこもる吉良邸跡や暗き井戸

《日帰り見学会》

笠森観音と大多喜城下を訪ねて

相川　洋

絶好の秋の行楽日和となった10月15日。参加者24名を乗せた町バスは途中茂原でトイレ休憩し、笠森観音に10時半到着した。笠森観音は天台

宗別格本山で、「笠森寺」が正式名称である。延暦3年（784）伝教大師最澄が楠の霊木に刻んだ「十一面観音菩薩」を安置し、開基したと伝えられている。

観音堂は長元元年（1028）、後一条天皇の勅願によって建立されたもので、その建築様式は日本唯一の「四方懸造（しほうかけづくり）」でといわれている。山頂の岩の上に61本の柱を立て、間口5間、奥行き4間の大堂となっている。現存の建物は文禄年間（1592～96）に再建されたもので国の重要文化財に指定されている。

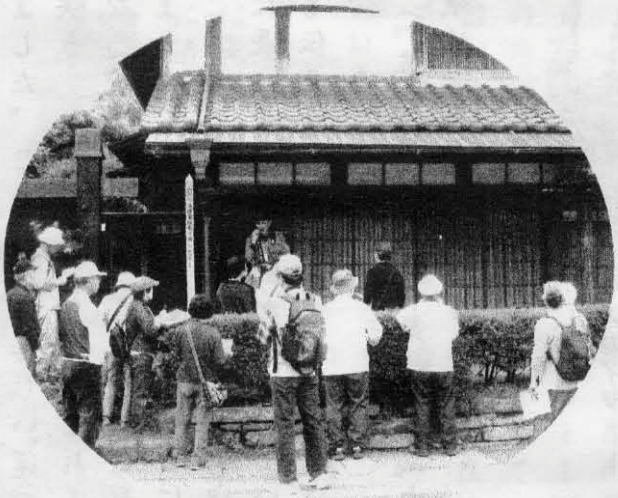
75段上がった回廊からは、四季折々の美しい房総の山々が眺められ周辺の森林は同寺草創期より保護され、国の天然記念物に指定されていて笠森自然林となっている。

また、同寺は坂東三十三霊場の第三十一番札所の巡礼地でもあり、沢山のお願い事をしてきました。

次に訪れたのは大多喜城下町である。大多喜城は天正18年（1590）本多忠勝の初代城主（石高10万石）から始まり、その後、阿部、青山、稲垣と代わって、元禄16年（1704）松平氏が入府以来9代続いた。

忠勝は徳川四天王の一人で、57回の合戦でかすり傷一つなしといわれた猛将である。10万石を治め、城下町を整備し、現在の町並みが整ったのは江戸前期ごろといわれている。

今回の散策コースは房総の小江戸といわれ、江戸時代からのたたずまいの建物が点在し、国重要文化財の渡辺家住宅など当時をしのばせてくれる。また、大多喜小学校正面入口から眺める大多喜城の天守閣の景観は、校舎の独特なデザインとマッチして見事である。



ガイドから渡辺家住宅の説明を聞く

小学校の近くに千葉県初の公立幼稚園であった大多喜尋常小学校付属幼稚園跡がある。当町は早い時期から学問環境が整備され、かの有名な理化学研究所長で工学博士の大河内正敏氏（最後の殿様で9代目の松平正質（まさただ）の長男）を輩出した町でもある。

大多喜小学校から大多喜城を臨む

現地ガイドの熱心な説明で、町全体の雰囲気が理解できました。

我が町酒々井には、古い歴史、文化、史跡等が数多くあります。本佐倉城城下町、成田街道酒々井町などの整備を、行政のリーダーシップと住民の熱意と連携一体化し、文化遺産として残したいと願望しています。

酒々井の伝説～お話その6～

千葉氏と本佐倉城（二話）

【千葉さま茶井戸】

今は木々がうっそうと茂り、だれにも気がつかれなくなっているこの涌き水ですが、4百年以上の昔、うしろの山に千葉のお殿さまがお城（本佐倉城）を構えていらっしゃる頃は、それはそれはきれいな水がこんこんと湧いていました。

その味は甘くてたいへんおいしかったので、お殿さまは毎日この水でお茶を点てるのを楽しみにしていました。

それからこの涌き水は「千葉さま茶井戸」と呼ばれるようになったということです。

【厳島の弁天さま】

ここは本佐倉の根古谷というところです。この根古谷（根古屋）という変わった地名は、山の上にお城のある城下を意味しています。そしてこの弁天さまの前に広がる田の向こうの山は城山といって、戦国時代には千葉氏の本城がありました。

ずっと昔（約15万年前）は、このあたりは広い広い海で、その名残りは上岩橋貝層として崖のあちこちに見られます。

やがて海が後退していくと印旛沼となり、千葉のお殿さまの時代には中池と呼ばれる大きな池になっていました。この池には美しい蓮の花が咲き、その中に厳島と呼ばれる小さな島があって弁天さまが祀られていました。そして、お城に入るには、こちらの山（向根古谷）から城山にに長い長い吊り橋がかかっていたとも伝えられていますが、これは定かではありません。

（『佐倉市誌資料』第二集・『本佐倉城址保存会』第一号より）

弁財天のイラスト

根古谷厳島神社の弁財天

観察メモ

カラタチバナ（ヤブコウジ科）

唐橘。名前は中国から来た橘の意味。別名ヒャクリョウ（百両）とも呼ばれている。7月に、ミカンの花に似ている白い花を数個まとまって下向きに咲かせ、実は緑色から秋には真赤な色になります。

常緑低木40チン前後になります。酒々井でも数か所確認していますが、本佐倉城の城山土手にあったものは今はなくなってしまいました。

ヤブコウジ（十両）マンリョウ（万両）も同じヤブコウジ科です。

お正月の花として使われる千両（センリョウ）はセンリョウ科です。

（野草部）

見学案内

日帰り見学会

初詣・寒川神社方面

1月20日（日）雨天決行

JR酒々井駅から乗車し、東海道本線・相模線と乗り継ぎ宮山駅で下車し、駅から徒歩10分で寒川神社へ。

この神社は相模国一の宮と称され、約千五百年余の歴史を有し、朝廷をはじめ、源頼朝や武田信玄などの武将そして民間と、幅広く信仰を受けてきました。関八州の裏鬼門に位置し、古くよりすべての禍事・災難を取り除き、家業繁栄・福徳円満な日々をもたらすといわれている八方除の守護神として信仰されています。

参拝した後、横浜石川町の中華街まで行き、ここで昼食・散策の後、帰途につきます。

名勝探訪

上野・御茶ノ水方面

3月12日（火）

雨天代替日3月14日（木）

上野駅から御茶ノ水駅まで点在する歴史的な建物を見ながら散策します。

★旧岩崎邸庭園――三菱創設者・岩崎家本邸として建てられ、洋館・撞球室・和館の3棟は重要文化財に指定されている。

★湯島天満宮――学問の神様・菅原道真公を祀り、合格祈願や学業成就で有名な神社。都内でも有数の梅の名所として知られ、梅まつりも開催される。

★神田明神――江戸東京に鎮座して1300年近くの歴史をもち、今もなお東京108の総氏神様。

★湯島聖堂――徳川五代将軍綱吉が1690年に建立した大成殿（学問所）。自らも講義を行なったといわれている。

郷土研日誌（抜粋）

月日	内容	参加者
9.24	秋の野草観察会	21
25	会報（146号）印刷	6
28	会報（146号）発送	14
10.6	史談会（中世の佐倉11）	24
9	日帰り見学会申込み受付	6
15	日帰り見学会「笠森観音方面」	24
16	研究会（寺社と石仏）	14
17	史跡ウオーキング実行委	5
20	〃　大会準備	5
21	〃　ガイド	5
11.6	研修部会	7
13	タウンカレッジ自然観察会講師派遣	2
20	研究会（野草観察）城跡	13
29	運営委員会	15
30	名勝探訪「根津神社方面」下見	3
12.1	史談会（中世の佐倉12）	22
5	名勝探訪「根津神社方面」	19
6	会報編集会議	6
14	会報編集会議	5
15	本佐倉城跡発掘説明会	3
18	研究会（町外史跡）	13
21	会報編集会議	6

あとがき

◆：この冬の寒さは例年になく厳しいようで、昨年末は大寒頃の寒さというから驚きである。しかし、寒さはこれからが本番である。風邪など引かぬよう、くれぐれも健康に注意し、ご自愛のほど念じています。

◆：広報部では会報用として、皆様の寄稿をお待ちしています。俳句、短歌、川柳、詩などや、紀行、随想など、なんでも結構です。原稿は最高千字以内でお願いします。

郷土研行事案内

平成２５年１月～３月

	１月	２月	３月
史談会	休講	２日（土）13：30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」⑬ 講師：高橋健一先生	２日（土）13：30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」⑭ 講師：高橋健一先生

日帰り見学会

［初詣・寒川神社方面］

１月２０日（日）　雨天決行

集合時刻･場所　８：00　ＪＲ酒々井駅　改札口前

資料代　100円

交通費　2,600円　（「休日お出かけパス」を購入してください）

コース　ＪＲ酒々井駅▬▬大船駅▬▬茅ヶ崎駅▬▬宮山駅…寒川神社…宮山駅▬▬石川駅（中華街で自由昼食　解散）

問合せ　岡田　まで

野草の会

［七草粥を食べる会］

２月１５日（金）　会場　中央公民館講堂

受付　11：00　会食　11：30

会費　600円

申込受付　参加ご希望の方は最寄りの運営委員にお申込みください

総会日（１月２７日）にも受け付けます

当日お手伝いくださる方は９：00頃までに公民館調理室においでください

（エプロン・三角巾をご持参ください）

問合せ　犬島（496-6258）まで

名勝探訪

［上野・お茶ノ水方面］

３月１２日（火）　雨天代替日　３月１４日(木)

集合時刻･場所　８：15　京成酒々井駅　改札口前

資料代　300円（資料代と入園料）　※交通費各自負担

コース　京成酒々井駅▬▬上野駅…旧岩崎邸…湯島天満宮…神田明神…湯島聖堂…ＪＲお茶ノ水駅　13：00頃解散予定

自由昼食

問合せ　岡田　まで

定期総会

［第３７回　定期総会］

１月２７日（日）　中央公民館２階研修室

受付　13：00　閉会　13：30

年会費1,000円をご用意ください

議題
- 平成２４年度事業報告および決算の承認について
- 平成２５年度事業計画案および予算案について
- 役員改選
- その他